

## デザインが導くイノベーション 未来を予見するプロトタイピング

実施日：平成28年11月2日～11月10日 於：米国（ロサンゼルス）、ブラジル（サンパウロ）

### ■派遣専門家



山中俊治

デザインエンジニア

東京大学大学院情報学環教授

1982年東京大学工学部卒業後、日産自動車デザインセンター勤務を経て独立。2013年より現職。デザイナーとして乗用車、腕時計、家具、ロボット、義足など幅広い人工物をデザインする一方、ICカード改札機の基本設計を始め様々な基盤技術開発にも貢献。近年は義足や感覚に訴えるロボットなど、人とももの新しい関係を研究されています。

### ■事業概要

#### ●ロサンゼルス



総領事公邸でのパネルディスカッション



ノーマン・クレチャック氏（GKデザイン・インターナショナル社長）と



ArtCenter College of Designで講演会と学生作品の講評

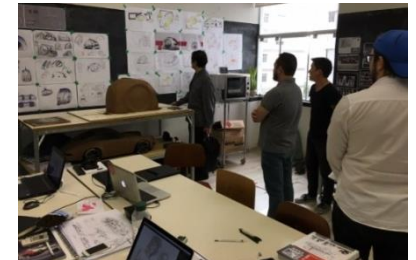
#### ●サンパウロ



IED大学での講演会



レアンドロ・ヴァロズIED大学教授、カイオ・バサオIED大学教授との意見交換



フェルナンド・モリタIED大学教授のラボ視察

### ■実施結果

ロサンゼルス、サンパウロの2都市で、「Design-Led Innovation」（デザインが導くイノベーション）と題した講演を行いました。講演会では、山中氏のこれまでのデザインのうち、ユーザビリティエンジニアリングや人間の身体と深く関わる義肢装具のデザインなど、人間と人工物の関わりを丁寧に考察した事例や、素材の特性や加工方法に着目したデザイン、最先端の技術や研究に形を与えるプロトタイピングなど、山中氏が世界に先駆けて行ってきた様々な取組を紹介しました。講演会に加え、現地学生の作品講評会を行いました。将来的な企画展の展示についても話し合わせ、日本と両国間の文化交流の活発化につながる事業となりました。